

江ノ電に乗って

鎌倉で1日乗車券「のりおりくんB券」を買って、江ノ島電鉄「江ノ電」に乗った。行き先は江ノ島である。人気の路面電車だけあり、観光客など大勢の乗客が乗っていた。七里ヶ浜を過ぎると一面に海が広がって見えてきて、思わず写真を撮った。雑誌でよく紹介される鎌倉高校前駅あたりの景色もなかなかのものだ。



江ノ電が最初に開業したのは、明治35年(1902)の藤沢～片瀬(現・江ノ島)間であり、日本の電鉄で6番目に古い。それから8年後に小町(現・鎌倉)まで全通した。

江ノ電というと、黒澤明監督の名作『天国と地獄』を思い出す。誘拐犯を捜索する途中で、電話に残る「カタンコト、カタンコト」という音がかすかに聞こえる。それが江ノ電であり、犯人逮捕につながっていく。海を眺めながら、映画シーンを思い起こしていると、三角屋根の江ノ島駅に着いた。歴史と風格を感じさせる駅舎だ。江ノ島と手前の腰越間だけは路面区間となっている。また、路面区間を歩きながら、路面電車の走る街から江ノ電を撮りたいものだ。



(2009年4月14 記)